

【議事】定7

(1) 技術試験衛星 型「きく8号」(ETS- )通信系ミッション機器の異常への対応状況について

NICTの大森理事が資料7-1(ETS- の異常への対応状況)を説明した後、下記のような質疑応答が行われた。

松尾:原因の究明には時間が掛かるかもしれないが、処置については3月末で終わりということなのか。(報告の中で、「3月中に目処を立て、4月からの衛星の初期確認は予定通り実行する。それまでに解決しなければ、初期確認の合間を縫って対策を実施する。」を受けての質問)

NICT大森:終わりではなく、区切りと申し上げた。溶断試験(ヒューズを切る作業)をして、駄目であっても区切りをつけ、基本実験を優先して、空き時間の中で可能な限り試みたいと考えている。

森尾:定常状態でF1のヒューズに何アンペア流れるのか。

NICT田中:LNA1個当たり68mA流れるので、280mA弱が流れる。

森尾:ショートしているとしたら何アンペア流れるのか。

NICT田中:検討中である。

森尾:今、実験をしているのではないか。

NICT田中:まだ実験をしておらず、(打ち切られる)

森尾:ああ、これ、計算ですね。資料の4ページのこれ。

NICT大森:定常的に流れた場合、計算で2.5Aである。現在、電源が落ち、パルス的な電流が流れているので、その試験を行っている。

池上:これは32個あるLNAの共通の話なのか。

NICT大森:いいえ、4つのLNAが一組なので、その一組のどこか

がショートしていると考えている。

池上:同じ減少が32個あるアンプリファイアの基の処で起きている。JAXA辻畑:別紙2のD,E,F,G,H,Iの辺りでショートが起きていると考えている。

NICT大森:32個あるローノイズアンプの何処がショートしても電源が落ちてしまう。

池上:では、32の同じ現象が起きているのではないと言うことか。

JAXA辻畑:その通りである。

松尾:JAXAが付け加えることは無いか。

JAXA辻畑:今、2週間を目処にと一緒にやっているのですが、JAXAとしても、それまでに解決したいと考えている。

青江:前回の報告で、この原因究明はNICT、JAXA、メーカーの3者の合同チームでやっていると言う話であった。外部の有識者は入っていないのか。

NICT大森:現在入っていない。

松尾:今日は有難うございました。解析の進展と、対策が上手く働くことを願っている。